



“有 NP-VP”における“有NP”の機能と意味：助動詞との比較から

著者	何 秋林
雑誌名	言語学論叢 オンライン版
巻	10 (通巻36)
ページ	84-99
発行年	2017-12-09
URL	http://hdl.handle.net/2241/00151285

“有 NP-VP”における“有 NP”の 機能と意味

—助動詞との比較から—

何 秋林

要 旨

本稿は、現代中国語の“有 NP-VP”を研究対象とし、助動詞との比較の観点から“有 NP”の統語的・意味的特徴を明らかにすることを目的とする。“有 NP-VP”における“有 NP”は、意味的には助動詞のように、事態が実現する可能性や必然性などに対する話し手の判断や態度、いわゆるモーダルな意味を表すことができるため、モダリティの機能を持つ条件が備わっていると言える。しかし、統語的には、完全にモダリティ機能を持つ助動詞と同様に働けないため、“有 NP”をモダリティに位置づける根拠は不十分であるように思われる。本稿では、1) 連用順序、後続成分及びアスペクト助詞との共起状況という統語的特徴と、2) 評価的な含意と可能性・意志性の度合いという意味的特徴から“有 NP”を助動詞と比較した上で、“有 NP”を「疑似モダリティ」に位置づけたい。

キーワード

有 NP 統語的特徴 意味的特徴 助動詞 疑似モダリティ

1 はじめに

現代中国語において、例文(1)～(3)のような文がある。以下、このような文を“有 NP-VP”と呼ぶことにする。

(1) 我们 有 必要 改变 思路¹。

私たち ある 必要 変える 考え方

(私たちは考え方を变える必要がある。)

¹ 本論文で使用する例文は CCL コーパス及び自作例に拠る。特に断らない限り、自作例である。

(2) 她 有 希望 考上 一流 大学。

彼女 ある 見込み 合格できる 一流 大学
(彼女は一流大学に合格できる見込みがある。)

(3) 我们公司 有 意向 开发 新 能源。

我が社 ある 意向 開発する 新しい エネルギー
(我が社は新エネルギーを開発する意向がある。)

(1)～(3)から分かるように、この構文の特徴は“有 NP”は事態の VP が実現する可能性や必然性などに対する話し手の判断や態度を表すことができるということである。例文を詳細に見てみると、例文(1)の“有必要”(必要性がある)は、VP の“改变思路”(考え方を変える)の必然性を表している。例文(2)の“有希望”(見込みがある)は、VP である“考上一流大学”(一流大学に合格する)の可能性を表している。例文(3)の“有意向”(意向がある)は、“开发新能源”(新エネルギーを開発する)という事態 VP を実現させようとする願望を表している。

実際に、中国語では、事態が実現する可能性や必然性などに対する話し手の判断や態度というモダリティは、助動詞によって表されるのが典型的である。例文(1)～(3)の“有 NP”は全て助動詞で置き換えることができる。

(1)' a. 我们 有 必要 改变 思路。

私たち ある 必要 変える 考え方
(私たちは考え方を変える必要がある。)

b. 我们 应该 改变 思路。

私たち AUX 変える 考え方
(私たちは考え方を変えるべきだ。)

(2)' a. 她 有 希望 考上 一流 大学。

彼女 ある 見込み 合格できる 一流 大学
(彼女は一流大学に合格できる見込みがある。)

b. 她 能 考上 一流 大学。

彼女 AUX 合格できる 一流 大学
(彼女は一流大学に合格することができる。)

- (3)' a. 我们公司 有 意向 开发 新 能源。
我が社 ある 意向 開発する 新しい エネルギー
(我が社は新エネルギーを開発する意向がある。)
- b. 我们公司 想 开发 新 能源。
我が社 AUX 開発する 新しい エネルギー
(我が社は新しいエネルギーを開発したい。)

要するに、助動詞と“有 NP”は共に事態の VP が実現する可能性や必然性などに対する話し手の判断や態度を表すことができる。それでは、“有 NP”は助動詞と同じもの、すなわちモダリティ機能を持つものであると考えてもよいのだろうか。

本稿は、(1)～(3)のような“有 NP”がモーダルな意味を表す“有 NP-VP”²を考察の対象とし、完全にモダリティ機能を持つ助動詞と比較しながら、“有 NP”の統語的・意味的特徴を明らかにすることを目的とする。

2 先行研究を通じた問題提起

“有 NP-VP”について、朱徳熙(1986)では、“有 NP”と VP の関係に着目して、“有 NP”は話し手の VP を実現するための必然性や可能性に対する態度 (modality) を表しており、その意味は助動詞の「能、会(～することができる)、可以(～してもよい)、应该(～するべきだ)」で言い換えることができると述べている。

しかし、実際の文脈において、“有 NP”が助動詞に置き換えられない場合もある。(4)のようなアスペクト助詞“了”と共起する“有 NP”は助動詞で置き換えることができない。

- (4) a. 在 大学期间, 我 有 条件 读 到 了 更多 的 书籍。(CCL)
介詞 大学の間 私 ある 条件 読む 補語 PRRF より多い 助詞 本
(大学の間に、条件が備わっていて、わたしはより多くの本を読んだ。)

² “有 NP-VP”には、“有人帮助我(助けてくれる人がいる。)”、“有衣服穿(着る服がある。)”のようなものもあるが、これらの文の中の“有 NP”は事態 VP の実現する可能性や必然性などのモーダルな意味を表さないため、本稿では、このような“有 NP-VP”を扱わないことにする。

b.*在 大学期间, 我 可以 读 到 了 更多 的 书籍。

介詞 大学の間, 私 AUX 読む 補語 PERF より多い 助詞 本
(大学の間、わたしはより多くの本を読むことができた。)

また、“有 NP”を対応する助動詞に置き換えた場合でも、意味的に両者は必ずしも同じではない。“有 NP”と助動詞の意味上の違いについては、朱徳熙(1986)でも若干言及されているが、「具体」と「抽象」という表面的な違い³を記述するにとどまっておらず、説明が不足しているように思われる。(5)のように、同じく可能性を表す“有希望”(見込みがある)と助動詞の“能”(～することができる)の意味上の違いは単に前者が具体的な可能性を表し、後者が抽象的な可能性を表すというだけではなく、それぞれが表す可能性の度合いにも違いが見られる。

(5) a. 他们 有 希望 成为 一流 的 合唱团。

彼ら ある 見込み なる 一流 助詞 合唱团
(彼らは一流の合唱团になる見込みがある。)

b. 他们 能 成为 一流 的 合唱团。

彼ら AUX なる 一流 助詞 合唱团
(彼らは一流の合唱团になることができる。)

また、竹島(1993)は、NP と VP の関係から、更に“有 NP”のモダリティ機能の由来を分析している。竹島(1993)によれば、NP は事態 VP が実現するための欠かせない要素であり、その要素 NP があるということを言うことで、結果的に事態 VP の実現する可能性・必然性などのモダリティを示すとされている。つまり、NP が“有”と結び付くと、単に「NP がある」というだけにとどまらない意味、助動詞に相当する機能を持つという指摘である。

しかし、“有 NP”が本当に助動詞のモダリティ機能を持っているか、あるいはどの程度、助動詞のように働けるのかといった点について、事態の実現可能性や必然性などを表せるという意味の面だけから判断しており、論証が不十分であるように思われる。また、“有 NP”と助動詞の意味上の違いについても言及されていない。

³ NP は独自の意味を持つため、助動詞と比べ、“有 NP”が可能性や必然性などをより具体的に表している。

先行研究に基づいて、本稿では、“有 NP” が助動詞機能、すなわちモダリティ機能を持つかどうかの問題について、まず統語的な面から検証を行う。それから、同じモダリティを表すのに、“有 NP” を使う場合と対応する助動詞を使う場合とで意味的な違いが生じるかという意味的な面から分析を行う。このように、統語的と意味的の両面から“有 NP” を完全にモダリティ機能を持つ助動詞と比較しながら、“有 NP” のモダリティ性を検証する。

3 “有 NP” と助動詞の意味分類

“有 NP” と助動詞の統語的・意味的特徴の具体的な比較に入る前に、まず、比較に有効な“有 NP” と助動詞の意味分類を示しておく。“有 NP” の分類は、NP の意味に基づいて行い、助動詞の選定は、“有 NP” との意味上の対応関係に基づいて行う。

3.1 “有 NP” の意味分類

NP の意味により、“有 NP” は様々な意味を表すことができる。本稿では、陳力衛(1992) と竹島(1993) の分類に基づいて、“有 NP” を意味的に次の 4 類に分ける。

表 1 NP の意味による“有 NP” の意味分類

“有 NP” の意味	NP
A. 意志・ 願望	決心(決心)、毅力(根性)、勇气(勇氣)、胆量(度胸)、意思(意思)、 心思(気持ち)、心情(気持ち)、兴趣(趣味)、诚意(誠意)、意向(意向)
B. 可能性	能力(能力)、実力(実力)、力量(力)、精力(精力)、本事(腕)、 信心(自信)、耐心(根気)、希望(見込み)、把握(自信)、指望(見込み)、 条件(条件)、办法(方法)、机会(機会)、时间(時間)
C. 必然性	必要(必要)、责任(責任)、义务(義務)
D. 許可	权利(権利)、资格(資格)、理由(理由)

3.2 助動詞の意味分類

研究者により、助動詞の意味分類の方法が異なっているが、全体的に助動詞の意味タイ

プはほぼ同じである。すなわち、可能性、意志・願望、必要性、許可の 4 つの意味タイプはどの先行研究でも扱われている。本稿では、丁声樹(1961)、馬慶株(1988)、劉月華(2001)などの先行研究を参照しながら、助動詞を以下の 5 種類に分けることにする。

表 2 助動詞の意味分類

助動詞 の意味	助動詞
A.意志・ 願望	想、要、肯、敢、愿意(～したい/～しようとする/～する度胸がある)
B.可能性	能、会、可以(～する可能性がある/～することができる/～はずだ)
C.必然性	应该、应当、得、必须(～するべきだ/～しなければならない)
D.許可	可以、能(～してもよい/～することが許される)
E.評価	值得、配(～する価値がある/～に値する)

3.3 比較の対象とする“有 NP”と助動詞

“有 NP”と助動詞の意味分類を比べてみると分かるように、E 評価に該当する“有 NP”が存在していないため⁴、A から D の 4 類に属する“有 NP”と助動詞が主たる考察の対象となる。なお、考察の便宜上、“有 NP”と助動詞との意味上の対応関係を主な基準とし、比較の対象を選定した。比較の対象とする“有 NP”と助動詞は表 3 の通りである。

⁴ 評価を表す“有 NP”はあるものの、単独でしか使えず、VP を伴うことができないため、分類の対象としない。例えば、“有教養(教養がある)”は“她很有教養。(彼女は教養が高い。)”のように単独で使うことができるが、“*她很有教養做事。(彼女は教養があって、仕事している。)”のように後ろに動詞句を伴うことができない。

表 3 比較の対象とする“有 NP”と助動詞

意味 タイプ	(有)NP	助動詞
A. 意志・ 願望	決心(決心)、勇气(勇氣)、 意思(意思)、意向(意向)	要、想、愿意(～しようとする/～したい) 敢(～する度胸がある/～する勇氣がある)
B.可能性	能力(能力)、信心(自信)、 希望(見込み)、把握(自信)、 条件(条件)、机会(機會)	能、会、可以(～することができる/ ～する可能性がある/～はずだ)
C.必然性	必要(必要)、责任(責任)	应该、得(～するべきだ/～しなければならぬ)
D.許可	权利(權利)、资格(資格)、 理由(理由)	可以(～してもよい/～することが許される)

4 “有 NP”と助動詞の統語的特徴

4.1 “有 NP”と助動詞の連用順序

助動詞の連用に順序があるということはよく知られている。馬慶株(1988)では、助動詞を意味により、可能 A(可能性)、必要、可能 B(能力可能)、願望、評価、許可の 6 種類に分け、その連用順序を以下のようにまとめている。

①可能 A(可能性) > ②必要 > ③可能 B(能力可能) > ④願望 > ⑤評価 > ⑥許可

一般的に異なるタイプの助動詞が連用する際、上述のような順序に従わなければならないとされている。

(6) 这本书 写得 比较 通俗, 你 ①应该 ③能 懂。

この本 書く 助詞 比較的 通俗的、あなた AUX AUX 分かる

(この本は分かりやすく書いているので、あなたは分かるはずだ。)

(7) 他 ①会 ④愿意 跟我 一起 去 吗?

彼 AUX AUX と 私 一緒に 行く 語気詞

(彼は私と一緒にいきたいと思うかなあ。)

例文(6)は、推測を表す“应该”(～はずだ)と能力可能を表す“能”(～することができます)が連用するものであり、上述の①>③の連用順序に従っている。(7)も、推測を表す“会”(～だろう)が願望を表す“愿意”(～したい)の前に生起し、助動詞の①>④の連用順序に従っている。もし、助動詞の連用順序を入れ替えると、非文になる。

一方、“有 NP”が連用する際どうなるかは、助動詞の連用順序に照らし合わせながら見ていくこととする。

(8) 我们 ④有 决心、①有 信心 把 这个 事业 坚持下去。(CCL)

私たち ある 决心、ある 自信 させる この 事業 続けていく

(私たちはこの事業を続けていく決心、自信がある。)

(9) 政府 ②有 责任、①有 条件 承担 输送 民工 的 任务。

政府 ある 責任、ある 条件 担う 輸送する 民工 助詞 任務

(政府は民工を輸送する任務を担う責任、条件がある。)

(8)では、意志・願望を表す“有决心”(決心がある)が可能性を表す“有信心”(自信がある)の前に生起しており、助動詞の連用順序に従っていない。同様に、(9)では、必然性を表す“有责任”(責任がある)と可能性を表す“有条件”(条件がある)の連用順序が助動詞の連用順序とは逆になっている。

一見すると“有 NP”の連用順序は助動詞の連用順序と正反対になっているように見えるが、実際は(8)、(9)を(8)′、(9)′のように、“有 NP”の連用順序を入れ替えることができる。

(8)′ 我们 ①有 信心 ④有 决心 把 这个 事业 坚持下去。(CCL)

私たち ある 自信、ある 决心 させる この 事業 続けていく

(私たちはこの事業を続けていく自信、決心がある。)

(9)′ 政府 ①有 条件 ②有 责任 承担 输送 民工 的 任务。

政府 ある 条件、ある 責任 担う 輸送する 民工 助詞 任務

(政府は民工を輸送する任務を担う条件、責任がある。)

このように、“有 NP”が連用する場合は順序が自由であるのに対して、助動詞が連用する場合は一定の順序に従わなければならない。このような違いが生じた理由は、“有 NP”は

並列関係にあるのに対して、助動詞は階層関係(内包関係)にあると考えられる。但し、階層関係は助動詞が自由に順序を入れ替えることができないということの説明にはなるが、助動詞の連用順序そのものを説明することはできない。

4.2 “有 NP” と助動詞の後続成分

助動詞には動詞と形容詞の双方が後続できる。それに対して、“有 NP” には動詞しか後続できない。

(10) a. 妈, 到时 您 准 能 高兴。(CCL)

お母さん、その時 あなた きっと AUX 嬉しい

(お母さんはその時、きっと嬉しいだろう。)

b.*妈, 到时 您 准 有 希望 高兴。

お母さん、その時 あなた きっと ある 見込み 嬉しい

(お母さんはその時、嬉しくなる見込みがある。)

(10)は、同じく可能性を表すものであるものの、助動詞の“能”(～だろう)は形容詞の“高兴”(嬉しい)を伴うことができるのに対して、“有希望”(見込みがある)は伴うことができない。これは“有 NP-VP”の連動文⁵としての規則に決められると思われる。連動文は動詞(句)続によって構成された構文であるため、VPは動詞(句)でなければならない。

4.3 アスペクト助詞「了」との共起状況

中国語には2種類の「了」がある。動詞(句)の直後に後続して動作の実現・完了を表すアスペクト助詞の「了」(通称「了₁」)と、文末に現れて新状況の発生や変化を表す語気助詞の「了」(通称「了₂」)である。

(11) a. 他 一个人 做 完 了₁ 所有 的 工作。

彼 一人 やる 終える アスペクト助詞 全て 助詞 仕事

(彼は一人で全ての仕事をやり終えた。)

b. 天气 终于 晴 了₂!

天気 やっと 晴れる 語気助詞

(やっと晴れた!)

⁵ 高増霞 (2006) によれば、連動文とは、二つあるいは二つ以上の動詞(句)が連続し、同じ主体の状況を述べ、動詞(または動詞句)の間に偏正関係、動目関係、連合関係などの文法関係のない、且つ形式上連用するいくつかの動詞(句)の間に接続詞やポーズなどのない構文である。

野村(2003)などでは、モダリティは一般的に「非現実」を表す意味論的カテゴリーとして考えられると指摘されている。そこから「非現実」を表すモダリティは完了を表すアスペクト助詞「了」との共起が困難であると考えられる。本節では、モダリティとの共起が困難である「了」を対象とし(以降「了」とする)、“有 NP”と助動詞の共起状況について比較する。

- (12) a. 我 很快 有 机会 在 戏 中 扮演 了 一个 英雄 形象 (CCL)
私 すぐに ある 機会 介詞 ドラマ 中 演じる PERF 1つ 英雄 イメージ
(私はすぐにチャンスがあって、ドラマで英雄役を演じた。)
- b. *我 很快 可以 在 戏 中 扮演 了 一个 英雄 形象。
私 すぐに AUX 介詞 ドラマ 中 演じる PERF 1つ 英雄 イメージ
(私はすぐにドラマで英雄役を演じることができた。)

(12a)の“有机会”(チャンスがある)と(12b)の助動詞の“可以”(～することができる)は両方とも条件可能を表すものであるが、“有机会”が完了助詞の「了」と共起できるのに対して、“可以”はそれができない。

しかし、あらゆる“有 NP”が完了助詞の「了」と共起できるわけではない。例えば、“有意向”(意向がある)、“有希望”(見込みがある)などは完了助詞の「了」と共起できない。完了助詞の「了」と共起できない“有 NP”の存在は、全ての“有 NP”の文法的特徴が均質的ではないことを示唆していると考えられる。ただ、助動詞が全く完了助詞の“了”と共起できないという事実と比べれば、一部とはいえ“有 NP”が完了助詞の「了」と共起することができるというのは注目すべき特徴であると言えるだろう。

5 “有 NP”と助動詞の意味的特徴

第 4 章につづき、本章では、評価的な含意と可能性・意志性の度合いという観点から、実際の文脈において、“有 NP”を使う場合と対応する助動詞を使う場合とで意味的な違いが生じないかを検証する。

5.1 評価的な含意

劉丹青(2011)で、“有”所有文は「良い(プラスの意味)」と「多い」の意味を表す傾向があると指摘されているように、“有 NP-VP”における“有 NP”は殆どプラスの意味を表す。そして、“有 NP”のプラスの意味に合わせるために、後続する VP に望ましい出来事

が要請されている。一方、助動詞は意味的に、プラスの意味とマイナスの意味のどちらか一方に特定されていないため、後続する VP も意味的に制限がかけられていない。言い換えれば、助動詞に後続する VP は望ましい出来事でもよいし、そうではない出来事でもよい。例文(13)、(14)から分かるように、望ましくない出来事の VP は助動詞には後続できるが、“有 NP”には後続できない。

(13) a. 在 成人 的 路上 人 会 遭遇 到 各种 矛盾 和 冲突。(CCL)

介詞 成人 助詞 途中 人 AUX 遭う 補語 各種 矛盾 と 衝突

(一人前になるまでには、様々な困難に遭うかもしれない。)

b.*在 成人 的 路上 人 有 条件 遭遇 到 各种 矛盾 和 冲突。

介詞 成人 助詞 途中 人 ある 条件 遭う 補語 各種 矛盾 と 衝突

(一人前になるまでには、様々な困難に遭う条件がある。)

(14) a. 好几次, 我 想 自杀。可是 一个 看管 我的 女学生 救 了 我。

何度も 私 AUX 自殺 しかし CL 見張る 私 助詞 女子生徒 救う PERF 私

(何度も自殺しようと思った。けれど、見張り役の女子生徒が私を救ってくれた。)

b.*好几次, 我 有 意向 自杀。可是 一个 看管 我的 女学生 救 了 我。

何度も 私ある 意向 自殺 しかし CL 見張る 私 助詞 女子生徒 救う PERF 私

(何度も自殺する意向があった。けれど、見張り役の女子生徒が私を救ってくれた。)

このように、プラスの評価を表す“有 NP”に望ましい出来事のみが後続される点において、助動詞と違いがある。

5.2 可能性・意志性の度合い

“有 NP”は助動詞のように、事態実現の可能性または事態を実現させようとする意志を表すことができるが、その可能性や意志性の度合いは必ずしも同じではない。具体例を見てみよう。

(15) a. 他 说 这个 目标 有 把握 超额完成。(CCL)

彼 言う この 目標 ある 自信 超過達成する

(彼はこの目標を超過達成する自信があった。)

b. 他 说 这个 目标 可以 超额完成。

彼 言う この 目標 AUX 超過達成する

(彼はこの目標は超過達成することができると言った。)

(16) a. 港粵双方 有 意向 成立 这项 基金。(CCL)

港粵双方 ある 意向 設立する この 基金

(港粵双方はこの基金を設立する意向がある。)

b. 港粵双方 要 成立 这项 基金。

港粵双方 AUX 設立する この 基金

(港粵双方はこの基金を設立しようとする。)

(15)では、目標の超過達成する可能性を表すのに、(15a)の“有把握”(自信がある)を用いた場合、目標を超過達成する可能性は高いというのが読み取れるが、具体的にどれほど高いかは言えない。それに対して、(15b)の助動詞の“可以”(～することができる)を用いた場合、目標を超過達成することができるという確定的な可能性読み取れる。(16)では、港粵双方の基金設立の願望を表すのに、(16a)の“有意向”(意向がある)を使った場合、この基金を設立するつもりがあるという比較的弱い願望を表している。一方、(16b)の助動詞の“要”(～しようとする)を使った場合、この基金を設立しようとするという比較的強い願望を表している。

“有 NP”と助動詞が現れるこのような可能性と意志性の度合いの違いは程度副詞との共起状況からも観察できる。

(15)' a. 他 说 这个 目标 (比较/很/非常) 有 把握 超额完成。

彼 言う この 目標 (比較的/とても/非常に) ある 自信 超過達成する

(彼はこの目標を超過達成する自信が(比較的/とても/非常に)あると言った。)

b.*他 说 这个 目标 (比较/很/非常) 可以 超额完成。

彼 言う この 目標 (比較的/とても/非常に) AUX 超過達成する

(彼はこの目標は超過達成することが(比較的/とても/非常に)できると言った。)

(16)' a. 港粵双方 (比较/很/非常) 有 意向 成立 这项 基金。

港粵双方 (比較的/とても/非常に) ある 意向 設立する この 基金

(港粵双方はこの基金を設立する意向が(比較的/とても/非常に)ある。)

- b.*港粵双方 (比较 / 很 / 非常) 要 成立 这项 基金。
港粵双方 (比較的/とても/非常に) AUX 設立する この 基金
(港粵双方はこの基金を(比較的/とても/非常に)設立しようとする。)

以上、程度副詞との共起可否から分かるように、“有 NP”は漠然とした程度の意志性や可能性を表すのに対して、助動詞は確定的な意志性や可能性を表す。それゆえ、“有 NP”は程度の異なる様々な程度副詞と共起できるが、助動詞は程度の異なる様々な程度副詞と共起できない。

6 まとめと今後の課題

本稿は現代中国語の“有 NP-VP”を研究対象とし、当該文における“有 NP”の機能と意味を考察した。

“有 NP-VP”における“有 NP”は意味上、事態 VP を実現する可能性や必然性または事態 VP を実現させようとする意志・願望などを表すことができる。この意味では、“有 NP”はモダリティを表す助動詞に近いと言える。しかしながら、統語的側面において、“有 NP”は、助動詞のように厳密な連用順序の制約を持たず、また後続要素に動詞性成分しか取らない点において、助動詞と様相を異にしている。また、完了アスペクト助詞の「了」との共起を基本的に許さず、既の実現した出来事を表すことができない助動詞に対して、“有 NP”は一部、「了」と共起することができ、既の実現した出来事を表すことができる点においても、“有 NP”と助動詞の間には、大きな違いがある。更に意味的側面においても、“有 NP”は確かに助動詞のように事態実現の可能性や必然性などに対する話し手の態度を表すことができるものの、その態度にプラスの含意しか含まれていないという点においては、助動詞とは性格が異なっている。また、可能性・意志性の度合いの点において、助動詞は確定的な可能性や意志性を表すのに対して、“有 NP”は漠然とした程度の可能性や意志性しか表さない。こうした点において、“有 NP”は意味的にも助動詞と異なる振る舞いをしている。“有 NP”のこのような統語的特徴と意味的特徴に基いて、本稿は“有 NP-VP”構文における“有 NP”を疑似モダリティとして位置づけたい。

疑似モダリティについて、Palmer(1990)は、意味上助動詞の can、must、will に近いにも関わらず、実際に助動詞と異なる統語的な振る舞いをする be able to、have to、be going to などを疑似モダリティと呼んでいる。例えば、be able to は意味上 can のように能力や可能性を表すことができるが、統語的には、(a) can は私的動詞(private verbs)と共起できるが、

be able to は私的動詞と共起しにくい、(b) can はほかの助動詞と連用することができないが、be able to はほかの助動詞と連用することができる、(c) can は過去形で既に実現したことを表してはいけないが、be able to は過去形で現実を表すことができる。そうした点から、Palmer(1990)では、can をモダリティ(modality)と呼ぶのに対して、be able to を疑似モダリティ(semi-modality)と呼び分けている。

本稿でも Palmer(1990)のこの立場を支持したい。本稿は、意味上助動詞のように事態実現の可能性や必然性などに対する話し手の態度を表せるが、統語的・意味的な面においては助動詞と異なる振る舞いをする“有 NP”は疑似モダリティと呼ぶべきであると考えられる。

また、一部の“有 NP”は完了助詞の「了」と共起することができるが、一部の“有 NP”は助動詞と同じように完了助詞の「了」と共起することができないことから分かるように、個々の“有 NP”の振る舞いは均質的ではない。この事実は“有 NP”の間で文法化の程度が異なっていることを示唆しているのではないと思われる。本稿では、“有 NP”の内部の非均質性について十分に考察することができなかつたが、今後は“有 NP”の内部の違いを検討する必要があるように思われる。

参考文献

- 竹島永貢子 (1993) 「「有・N・VP」と「有 VP 的 N」—日本語からの考察—」『中国語学』240: 41-50.
- 仁田義雄 (1991) 『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房.
- 野村剛史 (2003) 「モダリティ形式の分類」『国語学』54: 17-31.
- 原由起子 (1991) 「「有・N・VP」構造に於ける N と VP の関係」『中国語学』238: 63-71.
- 陳力衛 (1992) 「「有+N+VP」文の N の性格について」『言語と文化』54: 549-69.
- 丁声树 (1961) 『現代汉语语法讲话』商务印书馆.
- 刘丹青 (2011) 「“有”字领有句的语义倾向和信息结构」『中国语文』2: 99-109.
- 刘月华、潘文娱、故鞞 (2001) 『实用现代汉语语法』商务印书馆.
- 林芝羽 (2013) 「“有+NP+VP”和“有+VP+的+NP”结构的差异探析」『言語情報科学』11: 87-103.
- 马庆株 (1988) 「能愿动词的连用」『语言研究』1: 118-28.
- 彭利贞 (2005) 『现代汉语情态研究』中国社会科学出版社.
- 赵春利、石定栩 (2011) 「主谓间“有+NP/VP”的句法语义研究」『语言学论丛』44: 106-119.

张国宪 (2006) 『现代汉语形容词功能与认知研究』 商务印书馆.

朱德熙 (1986) 「变换分析中的平行性原则」『中国语文』.

Lyons, J. (1977) *Semantics II*. Cambridge University Press, Cambridge.

Palmer, F. R. (1986) *Mood and Modality*, Cambridge: Cambridge University Press.

Palmer, F. R. (1990) *Modality and the English Modals*, London: Longman.

(何秋林 筑波大学大学院生)

The Function and Meaning of “You NP” in “You NP-VP” Structure: From The Perspective of Comparison With Auxiliary Verb

HE Qiulin

This study was to investigate the structure of "You NP-VP" from the perspective of comparison with auxiliary verb. It tried to determine the syntactic and semantic features of "You NP" in the structure. Semantically, "You NP" can be used as auxiliary verb to express the speaker's judgment and attitude, which is so-called modal meaning. Therefore, it seemed that "You NP" can be regarded as modality. But syntactically, compared with true modality which was auxiliary verb, "You NP" showed very different characteristics. From this point of view, it was difficult to think of "You NP" as modality. Through the comparison of "You NP" and auxiliary verb in syntactic and semantic features, "You NP" was defined as semi-modality.